

手打地区だより

平成21年1月 「手打地区コミュニティ協議会」発行 No.13



皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をご家族お揃いでお健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。平素は、コミュニティ協議会の運営等につきましても格別のご高配を賜りまして深く感謝申し上げます。また、昨年行ないました各種イベントに対しましても皆様のご支援・ご協力によりまして盛況の内にすべてを執り行うことが出来ました。イベントは地域の皆さんが一同に会し、お互いの親睦と融和を図りながら地域全体の一体感を醸成するのが目的でもあります。これからも「自然の恵みと・思いやりの心に満ちた・活力ある地域づくり」を基本理念に、身の丈にあった活動を続けてまいります。皆様のご協力をお願いします。

手打地区コミュニティ協議会・役員一同



知覧町武家屋敷の門松

知覧町武家屋敷の門松

知覧町武家屋敷の門松は円錐状に盛ったシラスに笹のついたままの竹や松・ゆずり葉をたてて、シラスには薪を3本円錐状に置きます。シラスを盛った門松は、神様が降臨されたとき宿られる依代（よりしろ）薪を置くのは「かまどの火を絶やすことなく、三度・三度食べられますように」「この土地に根付いていられますように」「薪の鋭い割れが邪気をはらう」などの意味があるといわれています。

原文のまま記載



手打の門松

手打の門松は、円錐状に盛った白砂に支え木で松・竹を立てて、白砂には真っ直ぐに割った薪（マテの木）3本を組み合わせ末広がりには置いたものであり、知覧町武家屋敷のものとその形式・意味もほとんど同じではないかと思われます。

松は古くから新しい年を迎えるにあたって、玄関先を清め、悪い鬼又は邪気などが家の中に入らぬように祈念して立てたもので、門松で新年の神様をお招きする風習は全国各地にあるそうです。「松は千歳を契り、竹は万代を契る」という諺があり、門松に松と竹が使われるのは神の宿る場所（依代（よりしろ））が永遠に続くことを願っての組み合わせであると考えられています。門松を29日に立てるのは「九松」といって「苦待つ」に通じるということで嫌われるようです。28日までに立てるのが一般的のようです。門松は平安時代ごろから、めでたい木とされた松と、そのあとに竹が添えられて、めでたいものになり、竹と松が飾られるようになったとあります。

手打の門松は、鎌倉時代に甌島地頭として鎌倉から来島した小川氏とその家臣団によって伝えられたものと考えられます。そのためか質素で力強い鎌倉文化を思わせる様式となっています。先人たちが諸々の思いを込めて育み伝承してきた由緒ある貴重な伝統文化であります。これからも先人たちの遺産を大切に伝承しなければなりません皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

◇こ◇れ◇ま◇で◇の◇行◇事◇



12月13日(土)

朝から小雨がパラパラ。天気が心配されましたが、手打小学校を出発し、経塚までの往復(約10km)の道のりを参加者60名でウォーキングしました。4歳～77歳の参加者全員で心地よい汗を流しゴールした後、抽選会をおこないました。



12月20日(土)

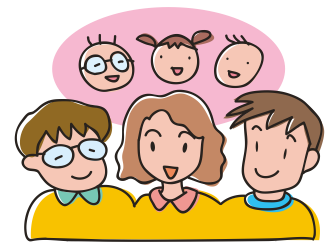
海っ子くらぶでは、玉姫園のおじいちゃん・おばあちゃんにクリスマスプレゼントを作りました。

手打小 スーパー6年生

手打小学校六年生のあきたろう手打チームが12月7日に行われた綱引き大会で見事準優勝し、なんと2月1日に佐賀県で行われる九州大会に出場することになりました。コミ協も応援します！

手打弁知ととな 魚編

くれいよ：メジナ	きんじゅ：タカノハダイ
すっこうめ：ニザダイ	あかばちい：ブダイ
ひさねいよ：イシダイ	あおばちい：アオブダイ
ひついよ：イスズミ	みずいか：アオリイカ
えびがね：伊勢えび	じいさま：オキナヒメジ
ううめじゃこ：ミナミハタンポ	がらかぶ：タカサゴ
あきたろう：バショウカジキ	じゃこ：キビナゴ



手打地区コミュニティ協議会に関するご意見・ご要望なんでもお気軽にお問合せください。

手打地区コミュニティセンター
薩摩川内市下甕町手打1035-1
☎09969-7-0928